

(12) 2016年(平成28年)9月21日 水曜日

子どもの いま 未来

護世帯の中学生を対象に無料の学習会を開いている。中3で母親に連れて来られたトシ君（仮名）は6時半から2時間の教室なのに、終了直前に来て5分間だけ勉強して帰るような状態だった。

ある日、わくわくエンジンのプログラムを受けたので、朝山あつこさんが感想を聞くと「自分に感動した」。彼のわくわくエンジンは「幸せな家庭を築くこと」だった。

「どうせ働くなら好きなことを探したい。モノ作りが好きなので建築科のある学校に行き資格を取りたい」と見違えるよ原点に話した。学ぶ目的が明確になつて見違えるように猛勉強を始め、全日制の工業高校に合格した。勉強が中だるみになつた時期もあつた。朝山さんが

たの、やる気なくなっちゃつた？ 幸せな家庭築きた
いんじゃなかつたつけ」と声をかけると「そつだつた、
そつだつた」と思い出した

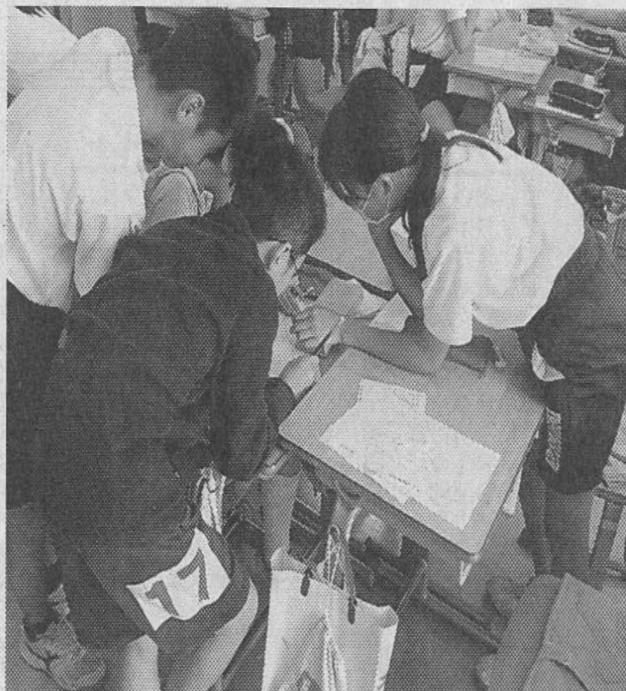
うに猛勉強

明確な目的意識

かのように、また勉強に集中した。「わくわくエンジンはそんなふうに、原点に戻るところなんです」

資格取得を目指して高校も休まずに通っている。

猶免



(キー・パーソン21提供)



コミュニケーションの始まり。紙にニックネームを書いて自己紹介する（キーパーソン21提供）

わくわくして動きださず
にいられない。そんな原動
力のようなものが誰にだつ
てあるはずだ。それを見つ
けられれば、子どもたちは
自分で動きだす。川崎市の
NPO法人「キーパーソン
21」の代表、朝山あつこさ
ん(55)は、その原動力を
「わくわくエンジン」と呼
び、子ども一人一人から引
き出す活動を続いている。

目次

の 中で、 A君が野球に対する想いを語る。A君は、B君が野球に対する想いを語る。

ること、C君は素振りや筋トレで日々、成長を感じることと答えた。わくわくエンジンは三者三様だった。
それなら3人とも打ち込む対象は野球に限らない。「このわくわくエンジンを自分で見つけているか、親や先生が理解しているかが、とても重要です」。辛パンの活動は、子どもたちがまず自分自身を知ること、次に社会を知ることを目指す。そのためのプログラムは多様だ。

自分や友達の好きなもの、大切に思うことを知り、世の中の仕事とつながっていることに気付く「好きなもののビンゴ＆お仕事マッ

生きる原動力見つけたい 一人一人が輝く社会に

わくわくエンジン



キーパーソン21の運営についてスタッフと
話し合う朝山あつこさん=川崎市の事務所

「習会に来る中3の少女は外国籍の母と2人暮らしだ。働きっぱなしの母を助けたいから中学を出たら働く」と話していたが、プログラムを受け「親のいない子のための施設をつくる」という夢を見つける。母の母国でホームレスの子と接した体験があつたからだ。

朝山さんは「夢のためにも進学を諦めない方がいい。助成制度を利用すれば進学できる」と勧め、少女は夢の実現に向かって歩みだした。

ではないと2000年、ヰ
一パーソン21を創設する。
NPOの活動と自らの子育
て経験から、課題とその解
決の道筋をつかみ「一人一
人が輝く」という理想の実
現に向けて走っている。
(共同通信編集委員・佐々
木央)

長男は中3になつて一高校に行かない」と言いだす。それは朝山さんの固定観念を搖さぶつた。「一本取られたと思いました。確かにこれが学校だと思ったら学校に行きたいと思うわけはない。学校や地域、家庭、日本の教育のあり方そのものが問われている」と気付く。

母親。18年前、中2だった長男の学校が荒れた。生徒が暴れ、廊下に牛乳をまき、トイレを壊す。ひどく無気力になる子もいた。「暴れる子も無気力な子も退屈そうに見えた。何に向かって生きていくか分からなくなつているようでした」と朝山さん。目標は親や先生に与えられるだけ。主体性が奪われてしまつているのではないか。

「普段、初めて会う大人と会話し、「伝える尋ねる・お願ひする」の3関門突破を目指すコミュニケーションゲーム…。わくわくエンジンを見つけた子は劇的に変わると朝山さんは言う。最近も小6から不登校だった男子高校生が、個別プログラムを受けた後、急に登校し始めた。いざれかのプログラムを受けた子は3万5千人を超えた。